

## 小寺臨床講読ワークショップ（Clinical Reading Workshop）

### フロイトの系統的理解（Ⅴ期）：1．精神分析の発見（1895-1910）

#### 本ワークショップのご案内

2006年の開講以来、第Ⅴ期を迎えました。精神分析において、フロイトの著作は今も基本であり、発想の源泉です。しかし系統的に読み進めるのは、容易ではありません。特に黎明期の精神分析は、19世紀の科学用語を引き継ぎ、臨床設定を定めていく途上にあるので、個人的に読んでフロイトの紆余曲折を辿ることは、案外困難です。グループで読み進めることで理解は深まり、初学者の方も経験ある方も、新鮮なフロイトに触れることができるでしょう。本ワークショップでは、参加時間の中でフロイト読解を体験し、精神分析の〈現場〉へと赴くことを目指します。

2018年度は、第Ⅴ期の初年度となります。3年間で全体をカバーする予定です。どうぞ奮ってご参加ください。

**テキスト：**フロイトの著作を系統的に講読します。各回の追加資料は事前に配布します。詳しくは **Reading List** を御参照ください。前半では、**Adam Phillips** の *Becoming Freud: The Making of a Psychoanalyst* (Yale UP, 2014) を読みます。全体を通して、**ジャン-ミシェル・キノドス『フロイトを読む』**（岩崎学術出版社刊）を参考書とします。

**日 程：** 2018年4月以降の第三金曜、午後7時～10時。年12回。

**講 師：** 福本修（余裕があれば時にゲスト講師）

**と ころ：** 小寺記念精神分析研究財団セミナールーム  
新宿区四谷3丁目4番 SCビル6階

**受講料：** 60,000円

**定 員：** 20名程度。テキストを読んで毎回参加できる方。臨床経験の多寡は問いません。

**申込方法：** 申し込み用紙に必要事項を書いて、FAX または郵送してください。最終的に、受講の可否を葉書きにてご連絡いたします。はがきに記載の振込先をご確認の上、受講料をお振込みください。

〒160-0004 新宿区四谷3丁目4番 SCビル6階

小寺記念精神分析研究財団事務局 FAX：03-3350-9749

**申込期限：** 2018年4月16日（月）

少人数に限定されておりますので、お申込後の取り消し、ご欠席等のないようにご留意ください。

主催 小寺記念精神分析研究財団

## Reading List: Reading Freud and post-Freudian ideas (ver.5)

全 12 回。フロイトの邦訳に関しては、岩波書店版フロイト全集（全と略）を参照。

### 1. [4月20日] 精神分析前史とフロイト研究の問題

「催眠による治癒の一例——「対抗意志」によるヒステリー症状の発生についての見解」（SE I 115-128；全1、341-357）

※ Phillips, A. (2014) *Freud's Impossible Life: An Introduction*. In *Becoming Freud. The Making of a Psychoanalyst*. Yale University Press.

※ Skues, R. (2017). Who was the 'Heroine' of Freud's First Case History? Problems and Issues in the Identification of Freud's Patients. *Psychoanal. Hist.*, 19(1):7-54.

### 2. [5月18日] *Studies on Hysteria* (Freud and Breuer 1895d)

『ヒステリー研究』（病歴D エリーザベト・フォン・R嬢）（SE II 135-181；全2、172-233）

※ Schafer, R. (1997). Conversations with Elisabeth von R., In *Storms in her Head: Freud and the Construction of Hysteria*, eds. Muriel Dimen and Adrienne Harris (New York, 2001), pp323-340.

※ Breger, L. (2009). Meaning Out of Chaos, In *A Dream of Undying Fame: How Freud Betrayed His Mentor and Invented Psychoanalysis*. Basic Books.

### 3. [6月15日] フロイトとマルタ

「1882年～1890年」『書簡集』（フロイト著作集8、16-250、人文書院、1974）

※ Steiner, R. (2013). Die Brautbriefe: The Freud and Martha correspondence. *Int. J. Psycho-Anal.*, 94:863-935

※ Phillips, A. (2014). Freud from the Beginning. I -V In *Becoming Freud. The Making of a Psychoanalyst*. Yale University Press.

※（参考）金関猛「ジークムント・フロイト／マルタ・ベルナイス『婚約書簡』について（一）『岡山大学文学部紀要』、第66号2016年6月、（二）同第66号2016年12月、（三）同第67号2017年6月、（四）同第67号2017年12月。

### 4. [7月20日] Project for a scientific psychology (1895)

「心理学草案」（SE I 281-397；全3、1-102）

※ Phillips, A. (2014). Freud from the Beginning.VI-X In *Becoming Freud. The Making of a Psychoanalyst*. Yale University Press.

※ Solms, M. (2013). The Conscious Id. *Neuro-Psychoanalysis*, 15(1):5-19

※ Kunstadt, L. (2013). The "Conscious Id": A Game Changer with Lots of Challenges. *Neuro-Psychoanalysis*, 15(1):55-58

※ Zellner, M. (2013). Where Ego was, There Id Shall Be? Some Implications of the

“Conscious Id” for Psychodynamic Psychotherapy. *Neuro-Psychoanalysis*, 15(1):76-79.

※ Solms, M. (2013). Response to Commentaries. *Neuro-Psychoanalysis*, 15 (1): 79-85

5. [8月17日] 「誘惑理論」とその帰趨

「神経症の遺伝と病因」(SE III, 143-156; 全3、175-191)、「防衛 - 神経精神症再論」(SE III, 162-185; 全3、193-218)「ヒステリーの病因論のために」(SE III, 191-221; 全3、219-257)

※ Schimek, J.G. (1987). Fact and Fantasy in the Seduction Theory: A Historical Review. *J. Amer. Psychoanal. Assn.*, 35:937-964.

※ Eissler, K.R. (1993). Comments on Erroneous Interpretations of Freud's Seduction Theory. *J. Amer. Psychoanal. Assn.*, 41:571-583.

※ Borch-Jacobsen, M. (1996). Neurotica: Freud and the Seduction Theory, October Vol. 76 (Spring), pp. 15-43

6. [9月21日] *The Interpretation of Dreams* (1900a)

『夢解釈』(SE IV-V, 1-621; 全4・5、全巻) I

※ Phillips, A. (2014) Freud Begins to Dream. In *Becoming Freud. The Making of a Psychoanalyst*, 99-121, Yale University Press.

※ ニコラス・ランド、マリア・トローク「フロイトの夢、家族を襲った破滅的出来事の証言者たち」「ジークムント・フロイトの精神分析的な理解に向けて」『フロイトの矛盾』第4章・第5章・結論、204-269、書肆心水、2016。

7. [10月19日] *The Interpretation of Dreams* (1900a)

『夢解釈』(SE IV-V, 1-621; 全4・5、全巻) II

※ Phillips, A. (2014) Psychoanalysis Comes Out. In *Becoming Freud. The Making of a Psychoanalyst*, 122-153, Yale University Press.

※ Sandford, S. (2017). Freud, Bion and Kant: Epistemology and Anthropology in The Interpretation of Dreams. *Int. J. Psycho-Anal.*, 98(1):91-110

8. [11月16日] *Three Essays on the Theory of Sexuality* (1905d)

「性理論のための三篇」(SE VII, 123-243; 全6、163 - 310)

※ Person, E.S. (2005). As the Wheel Turns: A Centennial Reflection on Freud's Three Essays on the Theory of Sexuality. *J. Amer. Psychoanal. Assn.*, 53(4):1257-1282

※ Parsons, M. (2000). Sexuality And Perversion A Hundred Years On. *Int. J. Psycho-Anal.*, 81(1):37-49

9. [12月21日] “Fragment of an Analysis of a Case of Hysteria” (Dora) (1905e)  
「或るヒステリー患者の分析の断片」(ドーラ) (SE VII, 1-122; 全6、1-160)

※ Mahoney, P. J. (1996). What Was the Matter with Waking to Dreams? In  
*Freud's Dora*, Yale University Press, pp. 76-104.

※ Tolpin, M. (2004). In Search of Theory: Freud, Dora, and Women Analysts.  
*Annu. Psychoanal.*, 32:169-184

10. [1月18日] *Delusions and Dreams in Jensen's "Gradiva"* (1907a)  
「イェンゼンの小説『グラディーヴァ』にみられる妄想と夢」(SE IX, 1-95; 全9、  
1-107)

※ ニコラス・ランド、マリア・トローク「イェンゼンの『グラディーヴァ』に応用さ  
れた精神分析」『フロイトの矛盾』第Ⅱ部、62-121、書肆心水、2016。

※ Fletcher, J. (2013). Gradiva: Freud, Fetishism, and Pompeian Fantasy.  
*Psychoanal. Q.*, 82(4):965-1011

※ (参考) 山本淳：『グラディーヴァ』とフロイト。1～10、松柏社、2014。

11. [2月15日] “Analysis of a Phobia in a Five-Year-Old Boy (‘Little Hans’ )”  
(1909b) 「ある5才男児の恐怖症分析(ハンス少年)」(SE 10, 1-147; 全10、1-176)

※ Bierman, J.S. (2007). The Psychoanalytic Process in the Treatment of Little  
Hans. *Psychoanal. St. Child*, 62:92-110

※ Wakefield, J.C. (2007). Attachment and Sibling Rivalry in Little Hans: The  
Fantasy of the Two Giraffes Revisited. *J. Amer. Psychoanal. Assn.*,  
55(3):821-849

※ Vives, J. (2012). ‘Little Hans’: From His Phobic Episode to Becoming an Opera  
Director. *Int. J. Psycho-Anal.*, 93(4):863-878

12. [3月15日] “Notes upon a Case of Obsessional Neurosis (The ‘Rat Man’ )”  
(1909d) 「強迫神経症の一例に関する考察(ネズミ男)」(SE X, 151-249; 全10、  
177-274, 275-370)

※ Mahony, P. J. (1986). The Rat Man's Treatment: General Facts and Questions.  
In *Freud and the Rat Man*. Yale University Press.

※ Mahony, P. J. (1986). Freud's Technique: Its Historical and Clinical Features.  
In *Freud and the Rat Man*. Yale University Press.

## 小寺臨床講読ワークショップ参加申込書

参加申込書は、下記住所まで郵送またはFAXにてお送りください。

〒160-0004 新宿区四谷3丁目4番 SCビル6階

小寺記念精神分析研究財団事務局

FAX : 03-3350-9749

申込締切：4月16日（月）

申込 月 日

フリガナ 氏 名		男・女 (19 年生)	
勤 務 先			
所 属		職 種	経 験 年
連絡先住所 自宅・勤務先	(どちらかに○) 〒		
電話(携帯可) 自宅・勤務先		e-mail アドレス	

セミナーの内容は、臨床心理系大学院修士課程修了程度の知識を前提としています。今期は、精神分析の始まりから扱います。参加者のメンバー構成および採否に関しましては、当方にご一任いただきます。決定次第、葉書にてご連絡いたします。振込先は、その際ご案内します。

**教育・研修歴**（最終学歴・研修機関のほか、これまで参加した系統講義・セミナーなど）

**本ワークショップへの参加動機**

**基本知識**（〔 〕内の該当するものに○をしてください）

最も印象に残るフロイト論文：①

② ③

キノドス『フロイトを読む』は〔既読・未読・読むつもり〕

西園昌久監『現代フロイト読本』は〔既読・未読・読むつもり〕

英語力は〔十分ある・時間を掛ければ読める・ほとんど読めない〕

**その他**（あればご自由にお書きください）

本セミナーの案内をどのようにして知りましたか？該当するものに○をお付け下さい。

郵便・ホームページ・メール・知人の紹介・その他（ ）

※記載いただいた個人情報は、セミナーのご連絡及びご案内のみに使いたします。